

台町

東谷田川の東岸の高台を小渡山(こわたりにやま)といい、かつて舟の渡し場があったという。対間と羽成をつなぐ街道があり、仲宿・下宿という小字名が残る。台町より不動並木へと続く道は、布施街道と呼ばれ、水戸街道の脇街道として江戸時代に発展した。土浦から谷田部、板橋不動尊守谷を経て千葉の布施弁天へ至る。**大日如来像** 13

国道354号線沿いの古墳と推測される高台の上にある。寛永年間だけにみられる高鼻の如来像。**愛宕神社**(あたごじんじや) 14

江戸初期建立と伝わる。高台にあり、火防の神を祭る。一月二十三日にお祭りが行われる。高台を下った南の参拜道にある鳥居は、享保二年(一七一七年)再建の由来を記した石碑がたつ。



医王寺薬師堂

平安初期の大同年間に薬師堂が建立され、戦国時代後期には牛久の由良氏が将兵の霊を弔うために立てた七観音八薬師の一つとされた伝承がある。江戸時代は、細川氏陣屋の鬼門として祭られ、谷田部藩士の菩提寺となった。境内に文政九年(一八二六年)の石灯籠、墓地内に六地藏が彫り込まれた石幢がある。弁財天の池や奉納されている数十体の地蔵も特徴。堂そばには、二宮尊徳の教えを受けて細川家の財政建て直しを行った家臣・三岡左次馬氏の碑がたつ。



鎌倉時代につくば市遠見塚に開創された時宗(じしゅう)の寺。現在地に何時移転したかは定かではないが、宝永七年(一七二〇年)に鐘樓を建立している。明治二十六年(一八九三年)の失火により焼失し、再建された。遊行上人(ぶぎやうしやうにん)の遺髪と分骨をおさめると伝わる。**今川家邸宅** 17

台町のかつての名主で、現在も茅葺の門が残る。

不動町

他 周辺

大渡山不動尊(おおわたりにやまぶどうそん) 18
この不動尊から松並木があったことより不動並木の由来となる。かつて舟の大渡場があったことから大渡山と呼ばれたという伝承がある。

不動並木

細川氏が陣屋を移した際、江戸に通じる街道を整備し、沿道に松を植えたとも伝えられる。昭和三十三年に県の天然記念物に指定された当時は、樹高二十五メートルもの黒松が百八十六本あったが、現在は全て枯死し、看板のみが残る。**小字名「駒形」「二の丸」** 20

駒形、二の丸という小字名は、戦国時代に牛久城の北の砦であった谷田部城の名残と伝えられる。城主は小田勢の岡見氏で、戦乱を経て佐竹勢の多賀谷氏と代わった。関が原の合戦で敗れた佐竹氏の秋田移封に伴い、谷田部城は廃城となった。**電鉄橋(でんてつばし)** 21

大正十一年(一九二二年)頃、阿見と土浦を結ぶ線と、土浦と谷田部と水海道を結ぶ電鉄敷設計画が立てられ、常南電気鉄道株式会社が設立された。翌年、株主募集の意図で、台町から駒形にかけて、第一期工事が行われたが、第一次大戦後の恐慌後の不況で、計画は中止となった。



景気で中止となった。工事跡には、道路と橋がかけられ、今の橋の欄干は車輪の模様になっている。**谷田部飛行場** 22 左地図

現在の農林研究団地(つくば市観音台)に、昭和十四年(一九三九年)、海軍は航空戦に備えて航空部隊の拡充を図るため、谷田部飛行場を設置した。阿見町の霞ヶ浦飛行場、神栖町の神池飛行場とともに海軍の重要な航空拠点であった。昭和十六年に太平洋戦争が始まり、昭和二十年には「昭和隊」と呼ばれる特攻部隊が出撃した。現在は、常磐自動車道に架かる橋が「飛行場橋」23と呼ばれ、かつて飛行隊が参詣した「谷田部神社」24が名残である。**※和名類聚抄(わみよりのいじゅうしやう)** 平安時代中期に、三十六歌仙の一人、源順が編集したという現存する最古の分類体漢和辞書。動植物から生活用品、国内の地名まで百科事典的な性格を有する。谷田部の地名が、河内郡「八部」として初めて登場する文献でもある。

歩いて発見! 谷田部マップ

2013年3月発行(第二版)



●この地図について
2009年11月28日に行われたアースデイつくばの合同企画「歩いて発見! 谷田部めぐり+まちゴミひろい隊」の記録より作成しました。講師の井坂敦美氏にお話を伺いながら、16名の参加者と共に歩き、知見を深めました。旧道や自然、史跡を見つけることで、先人の自然とつきあう生活スタイルを見直すきっかけになればと思います。お気づきの点がありましたら、アースデイつくば事務局までご連絡ください。

●参考文献
「谷田部の歴史」 谷田部町教育委員会 1975年
「保存版 土浦・石岡・つくば・かすみがうらの今昔」 郷土出版社 2008年
「目で見ると土浦・石岡・つくばの100年」 郷土出版社 1997年
「和名類聚抄」 名古屋市博物館 1992年

●監修/井坂 敦美(郷土史研究家)
協力/松村 勝行(歴史をよんでみる会)

●交通
【つくバス-自由が丘シャトル(荃崎)】
TXみどりの駅 発→バス停「谷田部窓口センター」、または「谷田部老人福祉センター」下車
つくバスはつくば市のコミュニティバスです。
☎029-883-1111(代) つくば市交通政策課

【関東鉄道バス】
JR土浦駅(西口)発の水海道駅行き、JR牛久駅(西口)発のTXみどりの駅行き、TXみどりの駅発の土浦方面行き・牛久駅行き・[80]農林団地循環行きのいずれかに乗車、谷田部商店街通り沿いのバス停「四つ角」「谷田部中央」などで下車。
☎029-836-1145 関東鉄道つくば中央営業所

【自動車】
国道354号線の交差点から千歳通りに入るとすぐ右手に旧谷田部庁舎の駐車場がある。谷田部小学校南側の陣屋の玄関前や、四つ角そばの商店街駐車場も駐車できる。

●注意
建物や遺構の多くは個人の所有地であり、寺社は地域の大切な場所です。訪れる時は、地域の方々の生活の迷惑にならないようお願いいたします。



Think Globally, Act Locally.

編集・お問合せ:アースデイつくば実行委員会

制作/ガイグラフィクス

牛久沼に注ぐ 東谷田川と

西谷田川には生まれ谷田部は

平安時代に編纂された和名類聚抄では
河内郡八部と記されている。

江戸時代は

細川藩の城下町として栄え
発明家の飯塚伊賀七
蘭学者の広瀬周伯・周度を輩出した。

歩いて発見!

やたべ

谷田部マップ



新治郡	坂門	竹嶋	治田	伊賀	博多	廻道	月波
大橋	新治	下真	巨神	井田			
真壁	神代	真壁	長貴	伴部	大死	大村	伴讀
大貴	筑波	水守	三村	栗原	諸備	清水	
佐野	方線						
河内	鳴名	河内	大山	八部	真備	菅田	大村
信太	大野	高菜	小野	朝夷	高田	子号	志方